

9 全体考察

(1) 教科に関する調査から

学力調査から、本県では「活用に関する問題」(B問題)について、全国よりやや劣る傾向にあり、依然として、思考力・判断力・表現力等に課題があることが分かった。併せて、各教科で上位層の割合が少ないことが分かった。

学力を身に付けさせることは、次代の鹿児島を担う子供たちの夢や希望を叶えるために必要なことである。思考力・判断力・表現力等を高めるために、単に知識を教え込む授業ではなく、基礎・基本を定着させつつ、児童生徒が自ら考え、主体的・対話的な授業が広がっていくよう、教師が授業力向上を図る必要がある。

<国語>

国語科では、小・中学校ともに無解答の割合が全国より低く、漢字の読み書きや記述式の問題について全国平均を上回るなど、日頃の学習の成果が表れている。

一方で、出題意図に対して必要な条件や根拠となる部分を正確に捉えることに課題が見られる。本調査問題は、表やグラフ、パンフレットなどの複数の資料や文章から出題されているため、全体を概観し、大まかに内容をつかんだ上で、必要な部分を正確に見付け、それらを関連付けるなどして正しく理解する力が必要である。

また、内容を正しく理解し、適切に表現するための語彙力や、伝えたい事柄が明確になるように文章の構成や表現の方法を工夫する力も必要である。

そこで、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと全ての学習を進める中で、考えの根拠となる会話や文章に着目させること、次にそれらの根拠を相手に分かり易く伝えられるように表現の工夫をさせることが大切である。その際、児童生徒の活動に対して、表現できたことを認めるとともに、根拠となる部分と考えとの関係性や表現の工夫について具体的に指導していくことが、次の学びへの意欲を培うことにもなる。そのため、学習を通して到達する児童生徒の姿を具体的に想定し、授業を展開することが必要である。

<算数・数学>

算数・数学科では、小学校においては、A問題について、全国の状況とほぼ同程度の結果であった。B問題においては、「グラフから読み取れる情報を根拠にして説明すること」、「問題場面と式を関連付けて、式の意味を解釈したり、解釈したことを記述したりすること」など、言葉や数、式等を用いて記述する問題について課題が見られた。

中学校においては、「関数に関する問題」や「図形の証明に関する問題」など、筋道立てて、数学的な表現で記述する問題に課題があった。

そこで、関数に関する問題についての指導は、関数関係を明らかにすること、関数関係を表現させること(表、式、グラフ)、関数関係を考察させることを意識することが大切である。特に、関数と表、式、グラフを関連付け、関数関係を考察するよう具体的な事象を捉え、説明させる活動を充実する必要がある。

また、全体に言えることとして、児童生徒の既有的知識や概念をゆさぶる指導、異なる表現様式（言葉や数、式、図、表など）を関連付ける指導、ノートの記述や板書を活用し、児童生徒一人一人の思考を振り返らせる場の指導を充実させることが大切である。

さらに、小・中学校を通じて、発達の段階に応じ、算数的活動・数学的活動を一層充実させるとともに、算数・数学の内容の系統性を重視しつつ、学年間や小・中学校段階での内容の一部を重複させ、学び直しを意識した指導をしていくことが大切である。

＜児童生徒質問紙調査から＞

児童生徒質問紙調査からは、鹿児島の子供たちは、家でよく勉強していること、規則正しい生活をしていること、そして、規範意識が高く、社会に対する興味・関心も高いなど、よい面がたくさんあることが分かった。特に、「家の手伝いをしている」割合は、小学生、中学生ともに全国一位であった。

また、クロス集計からは、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」子供ほど平均正答率が高いことなどが分かった。

その他に、家庭学習については、ほぼ全員の児童生徒が、家で宿題をしていることが分かった。課題である「思考力・判断力、表現力」等を育てるために、漢字の書き取りや計算などのドリル的な学習だけでなく、自ら考え、調べてまとめる宿題を与えたり、個々の定着度に合わせた課題を与えたりすることも必要である。

かごしま学力向上支援Webシステムの評価問題を活用し、子供の実態に合わせて宿題としたり、新しい単元を学ぶ前に既習事項を確認したりすることも有効である。

なお、課題である思考力・判断力・表現力等を高めるためには、学校だけでなく、家庭の取組も有効である。「勉強しなさい」と言うだけではなく、例えば、「学校でどんなことを学んだの?」、「このニュースを見て、どんなことを思う?」、「なぜそう思ったの?」など、児童生徒が思考し、自分の言葉で表現させるような会話を、心掛けることなどが考えられる。各学校では、保護者とも連携しつつ、あらゆる場面で、児童生徒の思考力等が育まれるように取り組むことも期待される。

＜学校質問紙調査から＞

学校質問紙調査からは、鹿児島の学校は、落ち着いた中で授業が行われ、学習規律が徹底され、基礎的・基本的な事項を定着させる授業がなされているなど、よいところがたくさんあることが確認できた。

しかし、校内外の教員同士の研修が充実していないことが課題として見えてきた。

クロス集計からは、校内研修等によく取り組んだ学校においては全国的に平均正答率が高いことが分かったことから、各学校においては、研修成果の実践への活かし方などを再検討して、校内研修等の取組の充実を図ってほしい。